

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-21

部門名： 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名： 東京都立八王子特別支援学校 添田和久 平成30年度 教職員等中央研修 第6回中堅教員研修
活動名： 「成果が上がる研究の構造化」 ツールの開発と研究のパッケージ化	
解決すべき課題： ・小学部、中学部、高等部を併設する大規模校であるため、統一された校内研究の組織を構築すること。 ・年度ごとに人事異動があるため、教師の専門性を担保すること。 ・学校として、一貫性のある指導内容に基づく授業のスタンダードを構築すること。	
目標・方針： ・大規模校で全教師参加型の研究組織を構築すること。 ・短い時間でも成果が上げられる構造化された研究パッケージを開発すること。	
活動内容： 【全校で統一した研究デザインの作成】 教科単位で細分化した研究グループを編成し、全教師が役割を担って研究活動に取り組むシステムの構築を図った。研究グループは、他学部との縦割りで編成し、小中高で指導内容の系統性が図れるようにした。 【役割を明確にした研究組織のライン化】 研究の企画・運営を行う研究推進プロジェクトチームが内容や方法の検討を行い、全教師が研究活動の見通しをもてるよう、研究授業や研究協議会の進め方など、一年間のスケジュールを全教師に提示した。研究グループごとに、推進委員を任命し、研究授業や協議会の日程調整、研究活動の進行管理等を、推進委員を中心に自律的に研究グループの運営を任せた。 【研究活動をパッケージ化するための研究ツールの開発】 研究協議の成果を短時間で上げるために、具体的に協議会の中で何をすればよいのかを明示した。研究協議会シートには、教科名を入れ、教科指導で身に付けさせたい力について詳細に記述できるようにした。各研究グループに協議会シートの使用を徹底させたことで、どのグループも「教科の目標を達成するための授業改善」に焦点をあてた研究協議を行えるようにした。 【研究活動のパッケージ化による育てたい力の継承】 前年度までの研究活動の成果から「実態把握のためのアセスメント表」「分かる授業のための自立活動チェック表」を作成し、研究授業で使用することで授業のスタンダード化を図った。	
活動の成果： 教師が研究協議に専念できる構造化された研究組織と学部を越えた研究活動のパッケージ化によって、教師が学部間の指導内容の系統性と継続性を意識できるようになり、指導内容の精選と小中高でつながりのある年間指導計画の作成を行うことができた。これにより、学校のカリキュラム・マネジメントの促進を図ることができた。「実態把握のためのアセスメント表」「分かる授業のための自立活動チェック表」によって、授業のスタンダード化が進み、研究成果を実際の授業改善に役立たせることができた。	
アピールポイント（アイデアや工夫）： ※3～5 つ程度、箇条書きしてください ・研究授業、研究協議会のフォーマットとツールを全校での共通化 ・教師が研究活動に専念できる構造化された研究組織の構築 ・授業のスタンダードとしての「実態把握のためのアセスメント表」「分かる授業のための自立活動チェック表」	

東京都立八王子特別支援学校の研究スタイルの確立

【研究組織の構築と役割の明確化】

研究推進プロジェクト
 ・担任部や分掌部を問わず編成
 ・研究や研修の方向性

教材作成事務支援部
 ・教材・教員作成のアドバイス など

OJT研究研修部
 ・研究の下支えとなる研修の講師派遣依頼
 ・公開研究会準備 など

教科A 教科B・・・

グループ研究推進委員
 研究グループ

・全員がいずれかの教科グループに所属
 ・教科によっては、その中をさらに複数のグループを編成

- 研究推進プロジェクトチームでお膳立て
 - 協議会の進め方の提示
 - 研究紀要の執筆方法
- グループ研究推進委員の役割
 - グループ研究の進行管理
 - グループ研の協議会の進行
 - 中間発表会・公開研究会等での発表
- 研究グループのメンバーで行うこと
 - 研究授業対象者の選出
 - チェック表を活用した授業評価
 - 指導方法や教材のアイデアを出し合う
 - 研究紀要の執筆

研究のデザインを統一する

グループごとに自律した運営

全員参加での研究活動

【研究活動をパッケージ化するための研究ツールの開発】

授業研究のツール

授業のデザインシート

指導案

実態表

4ベースチェックシート

協議会のツール

【PDCA サイクルを基本にした授業研究をパッケージ化】

研究のまとめ → 研究計画立案 → テーマの提示 → 研究体制の構築 → 研究協議会① → 研究授業 → 授業計画 → 日々の授業実践 → 改善協議 → 改善授業 → 研究協議会② → 研究協議会①

各期ごとの研究の流れ（フローチャート）

研究授業（タブレット端末で授業の様子を録画）

事後協議 1（ビデオによる観察）

事後協議 2（目標が達成できたかを協議）

目標が達成できたと思われる / 目標が達成できなかったと思われる

検証授業（事後協議を踏まえての参観） / 改善授業（事後協議を踏まえての参観）

検証協議（事後協議で立てた視点の検証） / 改善協議（事後協議で立てた視点の検証）